

救うのは、近くにいる あなた(バイスタンダー)の その手と勇気です。

市民の皆さんが応急手当を行い、大切な命を救った事例を紹介します。

千葉県消防局では、「救命バイスタンダー日本一の政令市！」を目指し、活動しています。皆様も命のバトンを引き継ぎ、救命の輪を広く普及しましょう！

緊急の事態に遭遇した場合には、適切な応急手当が実施できるように、日頃から応急手当に関する知識と技術を習得しておくことが大切です。

皆さんも、いざというときのために救命講習を受講しましょう！

【※1】除細動とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すことです。

【※2】応急手当普及協力事業所とは、事業所や近隣で発生した病気・事故・災害などへの救護協力など、応急手当に対する取組みを積極的に行っている事業所のことです。登録を申し出た事業所に「協力証」を交付し、市民の応急手当意識の高揚を図り、本市における自主救護能力及び救命効果の向上を目的としています。

大学生の心肺蘇生により救命した事例

バスを待っていた40歳代の女性が突然倒れました。
目撃した大学生により救急車到着までの約8分間、心肺蘇生法（胸骨圧迫）が実施されました。
救急隊に引き継がれた後、脈拍と呼吸が再開、その後、無事に退院し今までどおりの生活を送っています。

バイスタンダーにより早期に有効な心肺蘇生が行われたことにより、何の後遺症もなく退院出来ました。

路上で心肺停止となった男性を救命した事例

歩行中、60歳代の男性が突然倒れました。
近くに居合わせた男性2名が駆け付け、約5分間にわたって心肺蘇生法（胸骨圧迫）が実施され、救急隊に引き継がれましたが、救急車内で脈拍と呼吸が再開、その後は今までどおりの生活を送っています。

2名のバイスタンダーにより早期に有効な胸骨圧迫が実施された結果、何の後遺症もなく退院できました。

海岸で心肺停止となった男性を救命した事例

海岸で60代の男性が突然倒れました。

隣接する公共施設に勤務する男性が施設のAEDを持って駆け付け、心肺蘇生法の実施とともにAEDが使用された結果、その場で男性の脈拍と呼吸は再開し意識も戻りました。その後は今までどおりの生活を送っています。

バイスタンダーにより早期に有効な心肺蘇生法とAEDの使用により、何の後遺症もなく退院できました。

食事中、窒息状態に陥った男性を救命した事例

福祉施設内で食事中の男性が食べ物を喉に詰まらせて意識を失いました。

その場に居合わせた主婦と施設職員により異物除去（腹部突き上げ法）が実施され、その場で異物は取り除かれ、救急車到着時には意識も戻り、その後は今までどおりの生活を送っています。

周囲の人たちにより、迅速な応急手当（異物除去）が行われたことにより、救われた命です。

マラソン大会に参加したランナーの心肺蘇生により救命した事例

マラソン大会に参加した30歳代の男性が、ゴールした後突然倒れました。

目撃したランナー（海上保安庁職員）により心肺蘇生が実施され、その場で脈拍と呼吸が再開しました。

また、このマラソン大会では50歳代の男性と別の30歳代の男性もマラソン中に倒れ、目撃したランナー（消防職員）及び大会関係者により心肺蘇生が実施され、その場で脈拍と呼吸が再開しました。3名とも今までどおりの生活を送っています。

バイスタンダーにより早期に有効な心肺蘇生が行われたことにより、何の後遺症もなく退院出来ました。

親戚の心肺蘇生により救命した事例

墓参り中80歳代の男性が、突然倒れました。

一緒に墓参りをしていた親族（職業：看護師）による心肺蘇生と、霊園事務所に備え付けてあったAEDを使用した電気ショック（除細動）【※1】が1回実施され、救急車で脈拍と呼吸が再開しました。その後、無事に退院し今までどおりの生活を送っています。

居合わせた医療従事者により有効な心肺蘇生が行われたことにより、何の後遺症もなく退院出来ました。

カラオケ店店員の心肺蘇生により救命した事例

カラオケサークルに参加していた60歳代の男性が、歌っている最中に突然意識を失いました。同席していた仲間が声をかけましたが反応がなく、店員に助けを求めました。店員1名が119番通報をし、もう一名が備え付けてあったAEDを持って現場に向かい、心肺蘇生とAEDを使用した電気ショック（除細動）【※1】が2回実施されました。救急隊の到着後、もう一度電気ショックを実施し、救命センターに搬送中、脈拍と呼吸が再開しました。その後、無事に退院し今までどおりの生活を送っています。

倒れてから早期に電気ショックが行われたことにより、何の後遺症もなく退院出来ました。

スイミングスクールの指導員の手心肺蘇生により救命した事例

水泳の練習が終わりクールダウン中に10歳代の女性が突然意識を失いました。発見した指導員が的確な指示を行い、発見・通報・心肺蘇生・AED搬送を4名が役割分担して行いました。指導員による心肺蘇生と、備え付けてあったAEDを使用した電気ショック（除細動）【※1】が2回実施されました。その10歳代の女性は、救急隊の到着時に脈拍と呼吸が再開し、目も開けられるまで回復し、救急隊により救命センターへの搬送中には話が出来るようにもなりました。その後、無事に退院し今までどおりの生活を送っています。

4名の指導員の見事な連携により、救命されました。

このスイミングスクールは応急手当普及協力事業所【※2】に登録されており、定期的に救命講習を受講していました。

JR駅員の心肺蘇生により救命した事例①

停車中の電車内で60歳代の男性が突然意識を失いました。駆け付けた駅員が心肺蘇生を行い、駅に備え付けてあったAEDを使用して電気ショック（除細動）【※1】を2回実施しました。その60歳代の男性は、救急車内で脈拍と呼吸が再開しました。その後、救急隊により救命センターへ搬送され、無事に退院しました。

JRの駅員の皆さんは、定期的に救命講習を受講しています。

JR駅員の心肺蘇生により救命した事例②

JR駅構内で20歳代の男性が突然意識を失いました。駆け付けた駅員及び居合わせた医師が心肺蘇生を行い、駅に備え付けてあったAEDを使用して電気ショック（除細動）【※1】を1回実施しました。その20歳代の男性は、救急隊が到着する前に脈拍が再開しました。その後、救急隊により救命センターへ搬送され、無事に退院しました。

JRの駅員の皆さんは、定期的に救命講習を受講しています。

JR駅員の心肺蘇生により救命した事例③

JRの電車に乗車した10歳代の男性が突然意識を失いました。駆け付けた駅員が心肺蘇生を行い、駅に備え付けてあったAEDを使用して電気ショック（除細動）【※1】を1回実施しました。その10歳代の男性は、救急隊が到着する前に呼吸と脈拍が再開しました。その後、救急隊により救命センターへ搬送され、無事に退院しました。現在は今までどおりの生活を送っています。

JRの駅員の皆さんは、定期的に救命講習を受講しています。

小学生が心肺蘇生により父親を救命した事例

休日の午後、自宅でこどもたちと遊んでいた30歳代の父親が急に意識を失いました。慌てたお母さんは、119番通報をしましたが、心肺蘇生の方法がわかりませんでした。すると、お母さんの様子を見ていた小学校4年生の娘さんが突然心肺蘇生法を始めました。やがて救急隊が到着し、電気ショック（除細動）【※1】を実施したところ、呼吸と脈拍が回復しました。

お父さんは、救命センターに搬送され意識のない状態が続きましたが、数日後意識を取り戻し、クリスマスの日に無事退院することが出来ました。

小学4年生がなぜ心肺蘇生法を知っていたのでしょうか？それは、お父さんが倒れる前日に、通っていた小学校の体育館で、心肺蘇生法を学ぶ先生の姿を友だちと見ていてやり方を覚えていたからとのことでした。

心肺停止となった男性を職場の同僚が救命した事例

職場の体力検査を実施していた40歳代の男性が突然倒れました。その場に居合わせた同僚が心肺蘇生を行い、施設に備え付けてあったAEDを使用して電気ショック（除細動）【※1】を1回実施しました。その40歳代の男性は、救急隊が到着する前に呼吸と脈拍が再開しました。その後、救急隊により救命センターへ搬送され、無事に退院しました。現在は仕事にも復帰し、今までどおりの生活を送っています。

この同僚は、この日の1週間前に職場で行われた、「応急手当WEB講習」を受講したばかりでした。

お母さんの心肺蘇生により乳児を救命した事例

お母さんが目を離したすきに1歳の息子さんが浴槽内へ転落しました。息子さんがいないことに気づいたお母さんが自宅の中を探すと、浴槽に浮いているところを発見し、すぐさま浴槽から抱き上げました。お母さんは、119番通報するとともに、心肺蘇生を開始したところ、息子さんは、呼吸と脈拍が再開し、救急隊が到着する頃には泣き出していました。今はすくすくと育って保育園にも通っています。

お母さんは、この出来事の3か月前に、こどもに対する心肺蘇生法の講習を受講していました。

スーパーマーケットで倒れた男性を店員がAEDを使用して救命した事例

スーパーマーケットで買い物をしていた50歳代の男性が、突然倒れました。駆け付けた店員が心肺蘇生を開始するとともに店内のAEDを使用し電気ショック（除細動）【※1】を実施しました。救急隊が到着した時には男性の呼吸と脈拍が再開し、救命センターへ搬送しました。その後、男性は後遺症もなく退院し今までどおりの生活を送っています。

この施設では、応急手当普及協力事業所【※2】に登録をしており定期的に救命講習を実施していました。

JR駅員の心肺蘇生により救命した事例④

JR駅構内で70歳代の男性が突然意識を失いました。駆け付けたJR職員（7名）により心肺蘇生が開始され、駅に備え付けてあったAEDを使用して電気ショック（除細動）【※1】を実施後、救急隊へと引き継がれました。その後、70歳代の男性は救命センターへ搬送され無事に退院となり、後遺症もなく今までどおりの生活を送っています。JRの駅員の皆さんと救急隊、救命センターの連携により救われた命です。

JRの駅員の皆さんは、定期的に救命講習を受講しています。

バドミントン練習中に倒れた男性を友人たちが救命した事例

体育館でバドミントンの練習をしていた70歳代の男性が、突然倒れました。一緒にいた友人たちが心肺蘇生を開始するとともに、体育館に設置されていたAEDを使用し電気ショック（除細動）【※1】を実施しました。救急隊が到着した時には男性の呼吸と脈拍が再開、意識も戻り、かかりつけの病院に搬送されました。男性は後遺症もなく退院し、今までどおりの生活を送っています。

倒れた直後から応急手当を実施した友人の皆さんの勇気ある行動が命を救った事例です。

路上で心肺停止となった男性を歩行者が救命した事例

路上で倒れていた男性を通りがかった方が発見しました。協力者を求めようと、通りかかった自動車の運転者に説明、この二人で胸骨圧迫を実施して、救急隊に引き継ぎました。

偶然通りかかった方々の、勇気ある行動と適切な応急手当により救命の連鎖が行われた事例です。

マンション住人の協力により心肺停止になった男性を救命した事例

マンション前で倒れていた60代の男性を、複数の住人により、AEDの使用を含む応急処置が実施されました。

救急隊が到着した時には男性の呼吸と脈拍が再開しており、男性は一命を取りとめることができました。

このマンションでは、AEDを設置しているほか、防災の訓練等を積極的に実施していたとのこと。勇気ある住人の皆様の行動のほか、日頃の備えが役立った事例です。

